

Microsoft SQL 2000 での Cisco ICM データベースのバックアップ

目次

- [はじめに](#)
- [前提条件](#)
- [要件](#)
- [使用するコンポーネント](#)
- [表記法](#)
- [背景説明](#)
- [バックアップ デバイス](#)
- [ICM データベース バックアップ](#)
- [新しいディスク ダンプ デバイスを作成して下さい](#)
- [データベース バックアップを作成して下さい](#)
- [ICM 設定およびスクリプト データ バックアップ](#)
- [関連情報](#)

[はじめに](#)

この資料に ICM バージョン 5 および Microsoft SQL 2000 環境で Microsoft データベース バックアップ ウィザードの実行によって完全な Cisco Unified Intelligent Contact Management (ICM) エンタープライズ データベース バックアップを、行う方法を示されています。

[前提条件](#)

[要件](#)

このドキュメントの読者は次のトピックについて理解する必要があります。

- Cisco ICM
- Microsoft SQL

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco ICM バージョン 5.x および それ 以降
- Microsoft SQL 2000

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してくだ

さい。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

背景説明

違い、差分、トランザクションログおよび ICM 設定およびスクリプト データ バックアップをその間十分に理解することは重要です。

- 変更があるので最後のバックアップずっとあるかどうかに関係なく十分に **backup** — データベースのすべてのデータを、バックアップします。
- **差動は backup** — 行う最後の完全バックアップ以来のデータベースへの変更だけ記録します。このオプションはバックアップ メディアおよび完了のより少ない領域をより速く使用します。このバックアップの種類は規則的な完全バックアップに補足として最もよいです。差分バックアップを復元する前に、最後の完全バックアップを復元して下さい。
- **トランザクションログ** — トランザクションログに書かれているトランザクションをの最後のトランザクションログ バックアップ バックアップします。短い間隔のデータを保護するのにこのバックアップの種類を使用して下さい。トランザクション ログのバックアップを復元するために、最後の差分バックアップに先行している最後の完全バックアップを加えて下さいそして差分バックアップ以来作成されるすべてのトランザクション ログのバックアップを復元できます。
- **設定およびスクリプト データ backup** — コンフィギュレーションデータはコンタクトセンター エンタープライズを記述し、すべての周辺装置、サービス、ダイヤルされた番号、ルートおよび周辺装置ターゲットが含まれています。スクリプト データはまた両方の口ガーで保存され、すべての呼ルーティングが含まれ、管理上呼ルーティング (現在および前のバージョン) の ICM ソフトウェア使用のスクリプトを書きます。二重にされた Central Controller システムでは、コンフィギュレーションデータは両方の口ガーで二重にしておかれます。それは口ガーが再起動するとき常に再同期化されます。

バックアップ デバイス

バックアップはバックアップ デバイスで保存されます。2 つのオプション、ディスク デバイスおよびテープデバイスがあります。

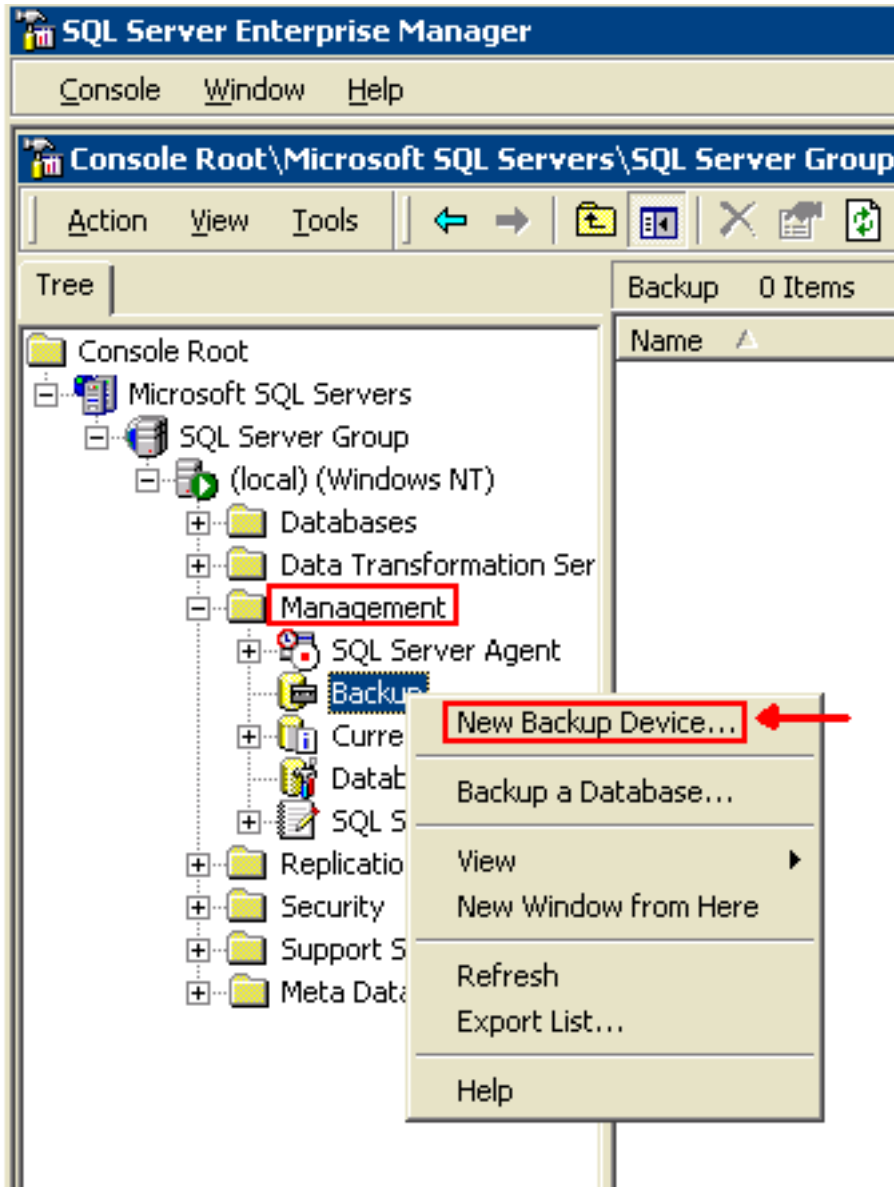
- **ディスク デバイス** — ディスク デバイスはハード ディスクのような記憶媒体です。これらのデバイスはリモートサーバにあるかもしれません。決して ICM データベースが常駐する同じディスクにバックアップを置かないで下さい。
- **テープデバイス** — テープデバイスを取扱うことはディスク デバイスを取扱いますと本質的に同じ。唯一の違いはあります、それはリモート磁気テープ 装置をサポートしないし、テープが完全なとき別のテープのためにプロンプト表示されます。

ICM データベース バックアップ

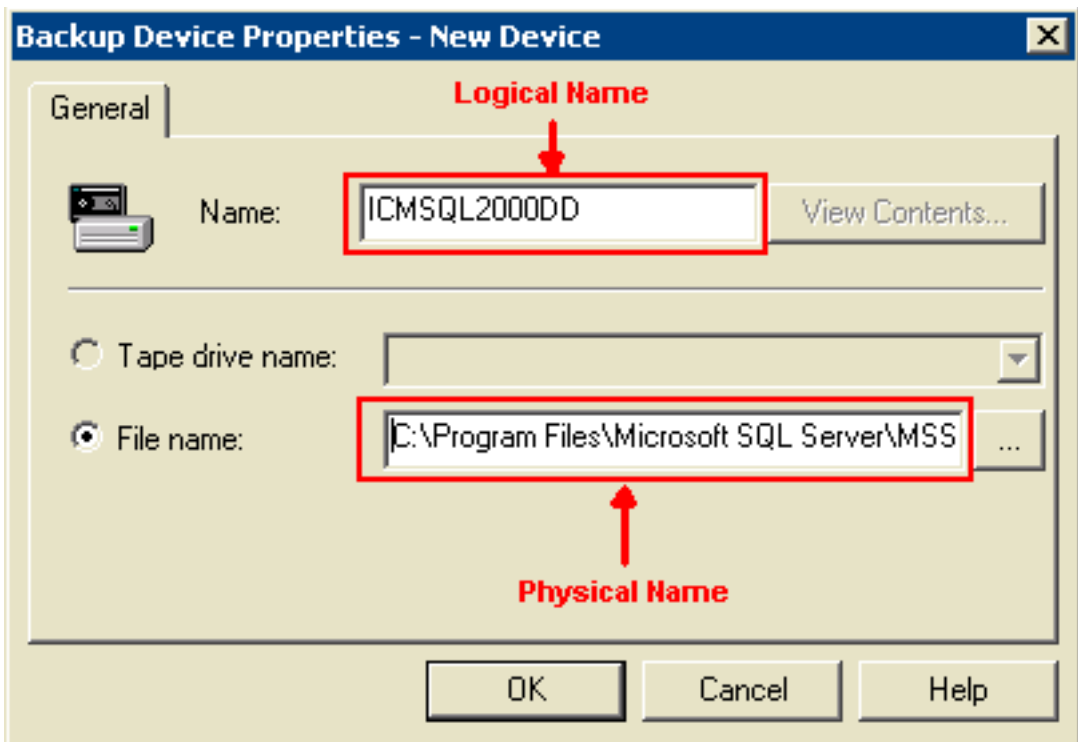
新しいディスク ダンプ デバイスを作成して下さい

バックアップ デバイスは物理名か論理名によって参照することができます。物理名はディスク デバイスのファイル名です。論理名はバックアップ デバイスを使用する前の SQL サーバ内から作成される物理名のためのエイリアスです。これは論理デバイスを作成するプロセスです:

1. SQL サーバ Enterprise Manager を開いて下さい、Start > Programs > Microsoft SQL Server > Enterprise Manager の順に選択して下さい。
2. ICM データベースが保存される SQL サーバに接続して下さい。
3. [図 1](#) に示すように管理 ノードの下でバックアップ コンテナを、開いて下さい。[図 1](#): 管理 ノードの下でのバックアップ コンテナ



4. 右クリック バックアップ。
5. 『New Backup Device』 を選択して下さい。バックアップ デバイス Properties ダイアログ ボックスは [図 2](#) に示すように、現われます。[図 2](#): バックアップ デバイス Properties -新し



いデバイス

6. 論理名を、たとえば、ICMSQL2000DD 入力して下さい。注: 既定のストレージ場所およびファイル名 (それは選択の場所またはファイル名のどれである場合もあります) のような論理名を、使用することは有用です。
7. ディスク デバイスの代わりにテープデバイスを使用している場合、ステップ 5. のファイル名の代わりに、『Tape drive name』を選択して下さい。
8. 新しいバックアップ デバイスを作成するために『OK』をクリックして下さい。

単一バックアップ デバイスは複数格納バックアップに使用することができます。それは SQL サーバ Enterprise Manager を使用してバックアップ デバイスの作成に制限されません。SQL サーバはまたクエリ アナライザからのバックアップ デバイスを作成することを可能にする `sp_addumpdevice` 保存された手順が付いています。この保存された手順の構文は次の通りです:

```
sp_addumpdevice {'device_type', 'logical name', 'physical name'}
```

注: 最初のパラメータは装置タイプ、ディスクかテープです。次に、物理名に先行しているデバイス論理名。

データベース バックアップを作成して下さい

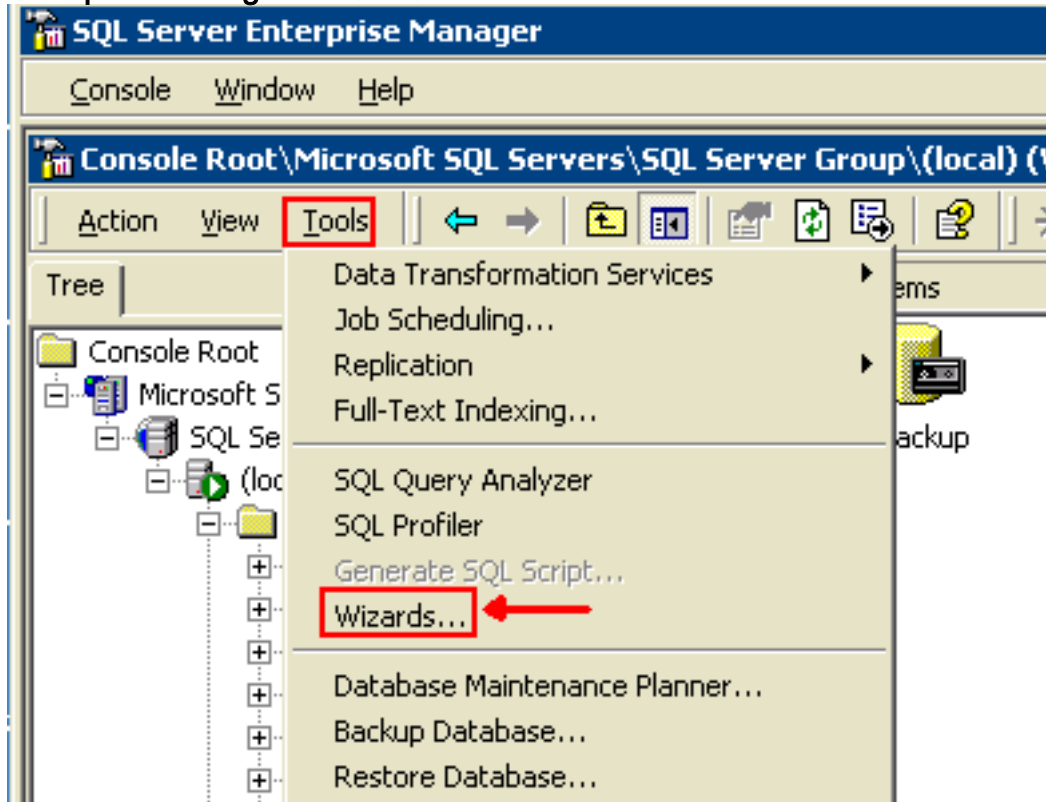
ICM データベース バックアップの準備をした場合考慮事項に以下の項目を運ぶことを確かめて下さい。最初にバックアップが時間の間にその影響生産性最少スケジュールされることを、確かめて下さい。2 番目に、データ統合を保護するために、ICM データベース バックアップの間にこれらの操作を行わないで下さい:

- データベース ファイルを作成するか、または削除して下さい
- インデックスを作成して下さい
- 記録されないオペレーションを行って下さい
- データベースを縮めて下さい

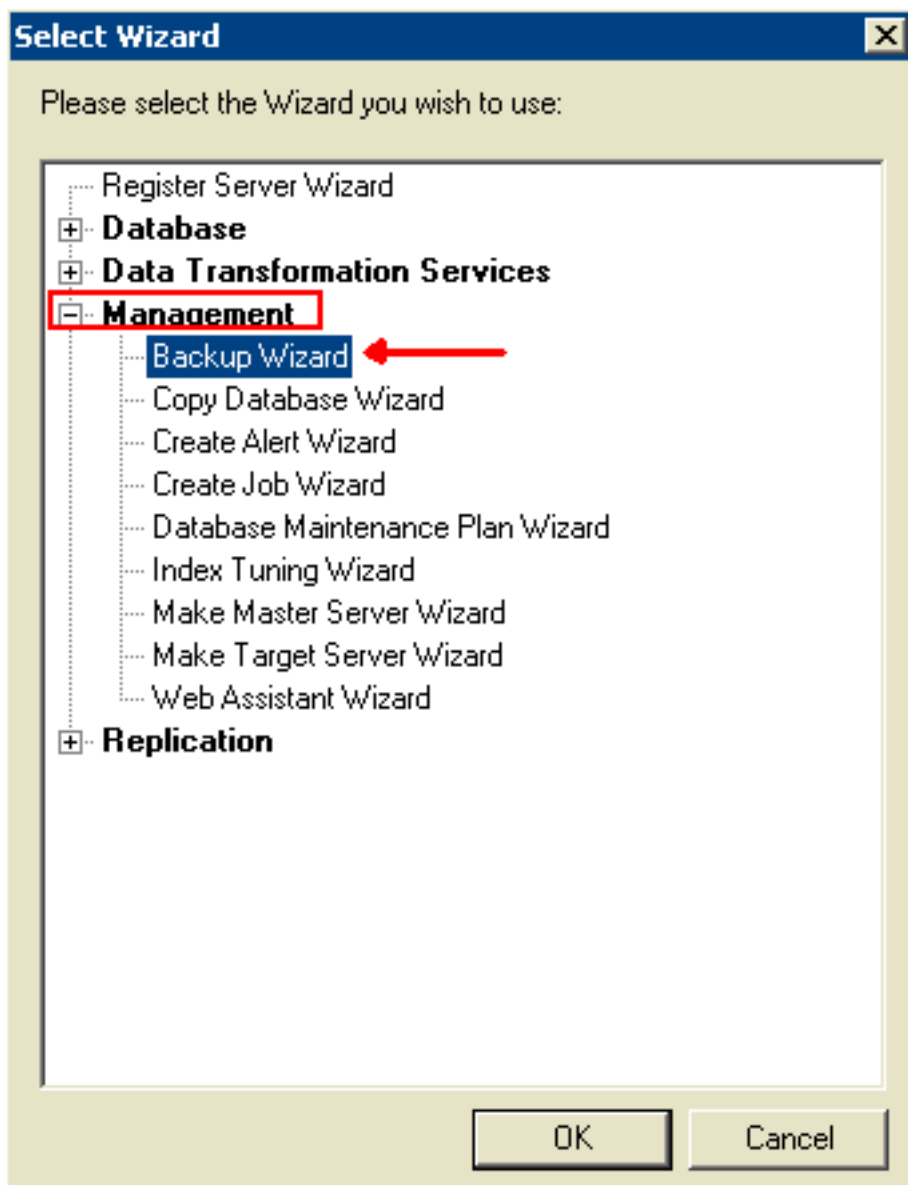
これは ICM データベースのための新しい ICM データベース バックアップを作成するプロシージャです:

1. SQL サーバ Enterprise Manager を開いて下さい、Start > Programs > Microsoft SQL Server > Enterprise Manager の順に選択して下さい。

2. ICM データベースが含まれている SQL サーバに接続して下さい。
3. [図 3](#) に示すように > ウィザードを、『Tools』 を選択して下さい。[図 3](#) : SQL サーバ Enterprise Manager ---- ツール



4. 管理を拡張するためにクリックして下さい。
5. 『Backup Wizard』 を選択して下さい。
6. [図 4](#) に示すように、『OK』 をクリックして下さい。[図 4](#) : SELECT ウィザード

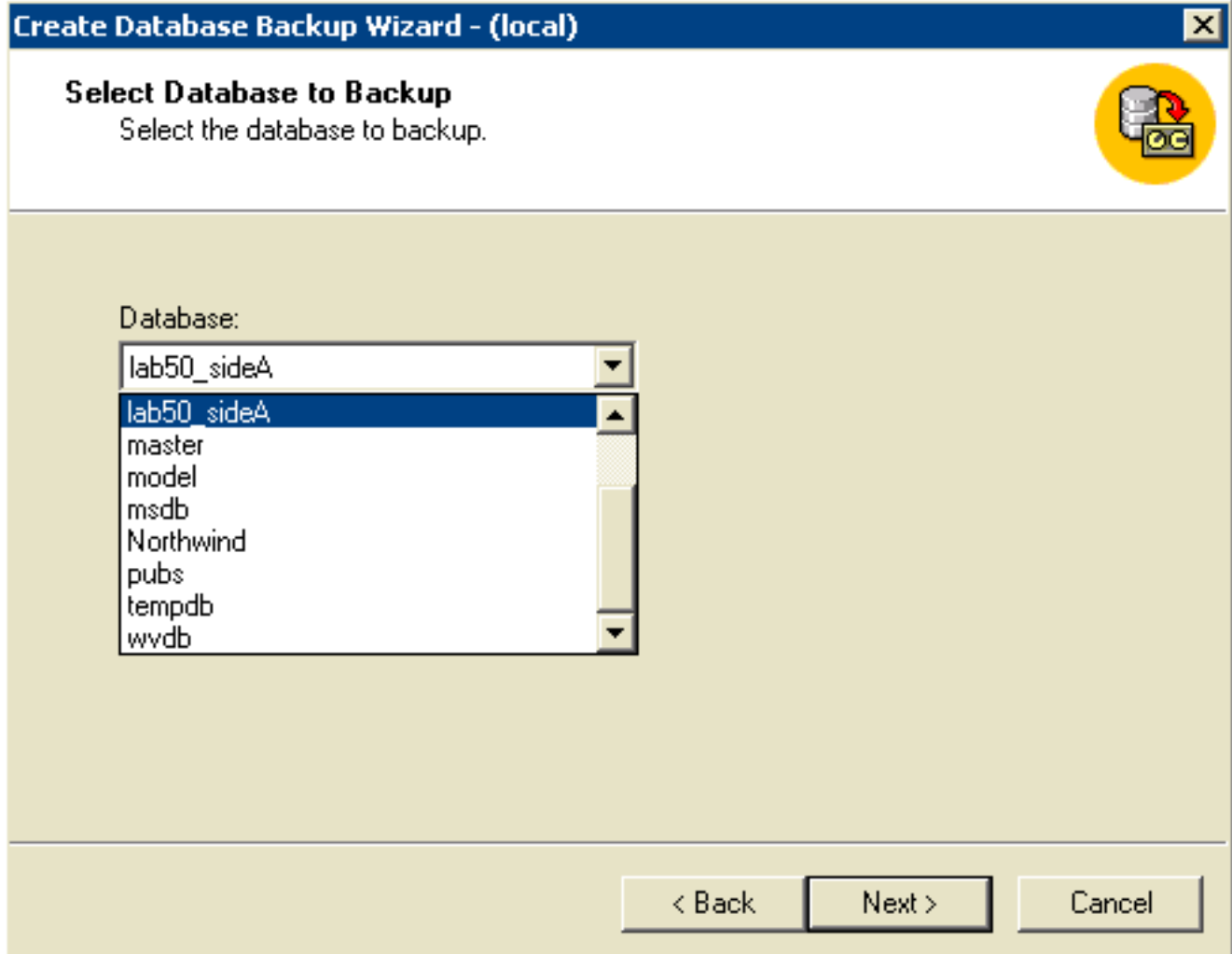


作成データベース バックア

ップ ウィザードスクリーンは [図 5](#) に示すように、開きます。[図 5](#)： データベース バックア
ップ ウィザードを作成して下さい




7. 『Next』 をクリックして下さい、[図 6](#) 現われます。[図 6](#) : バックアップするために『Database』 を選択して下さい



8. 矢印をクリックし、バックアップしたいと思う ICM データベースを選択して下さい。
9. [Next] をクリックします。図 7：バックアップのための型名および説明

Create Database Backup Wizard - (local) [X]

Type Name and Description for Backup
Type the name and description of the backup.



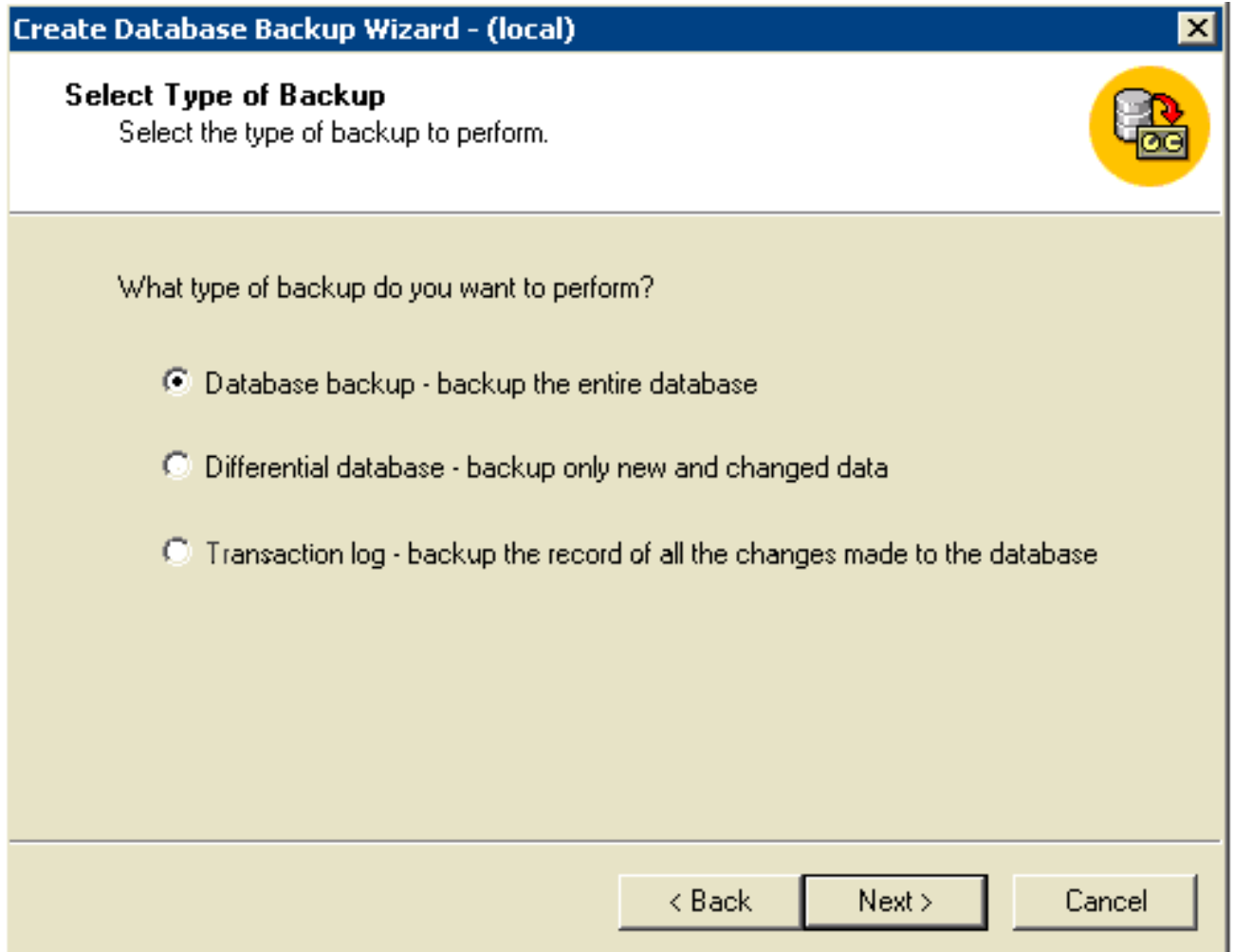
Name:

Description:

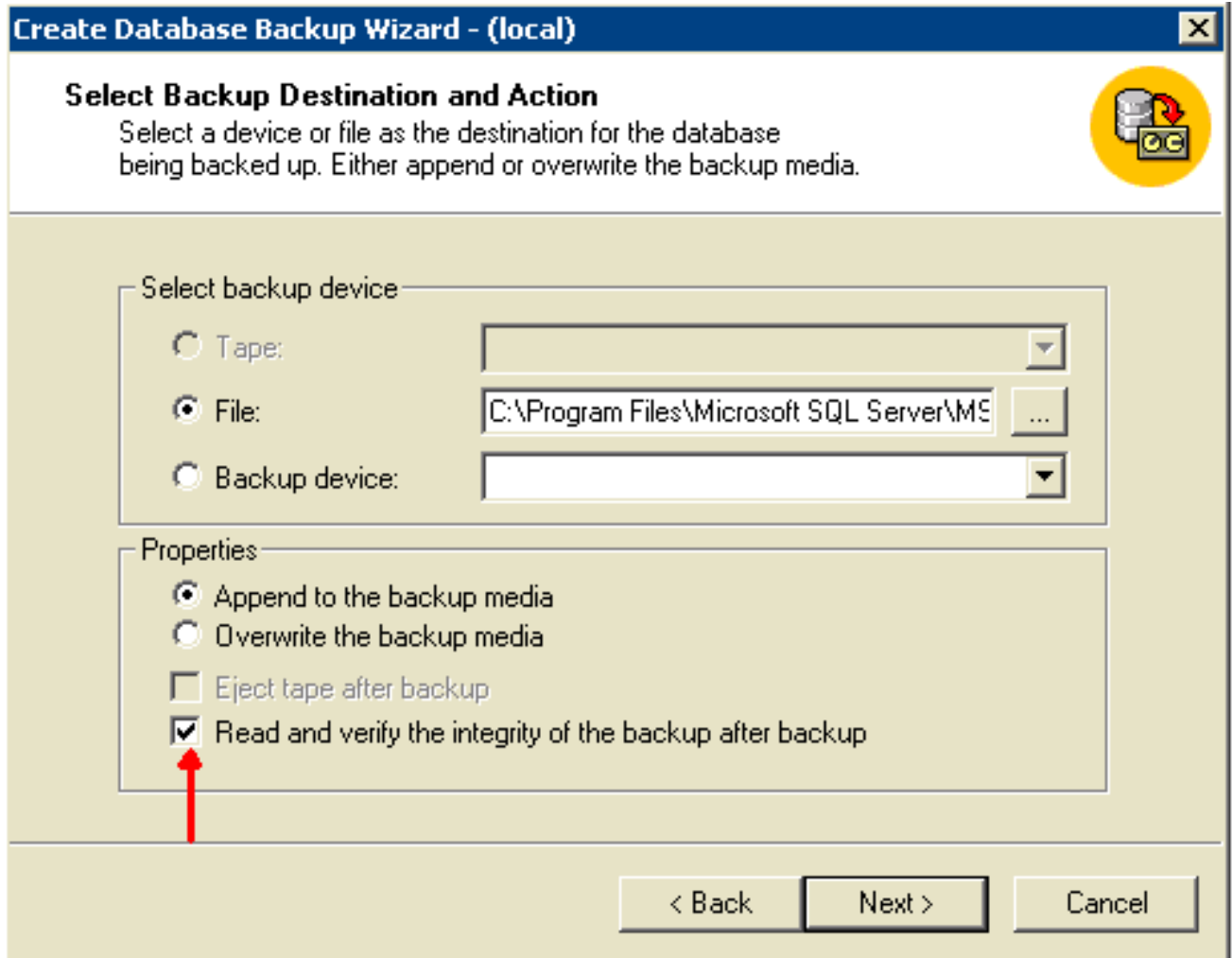
< Back **Next >** Cancel

10. バックアップに名前および説明を提供します。

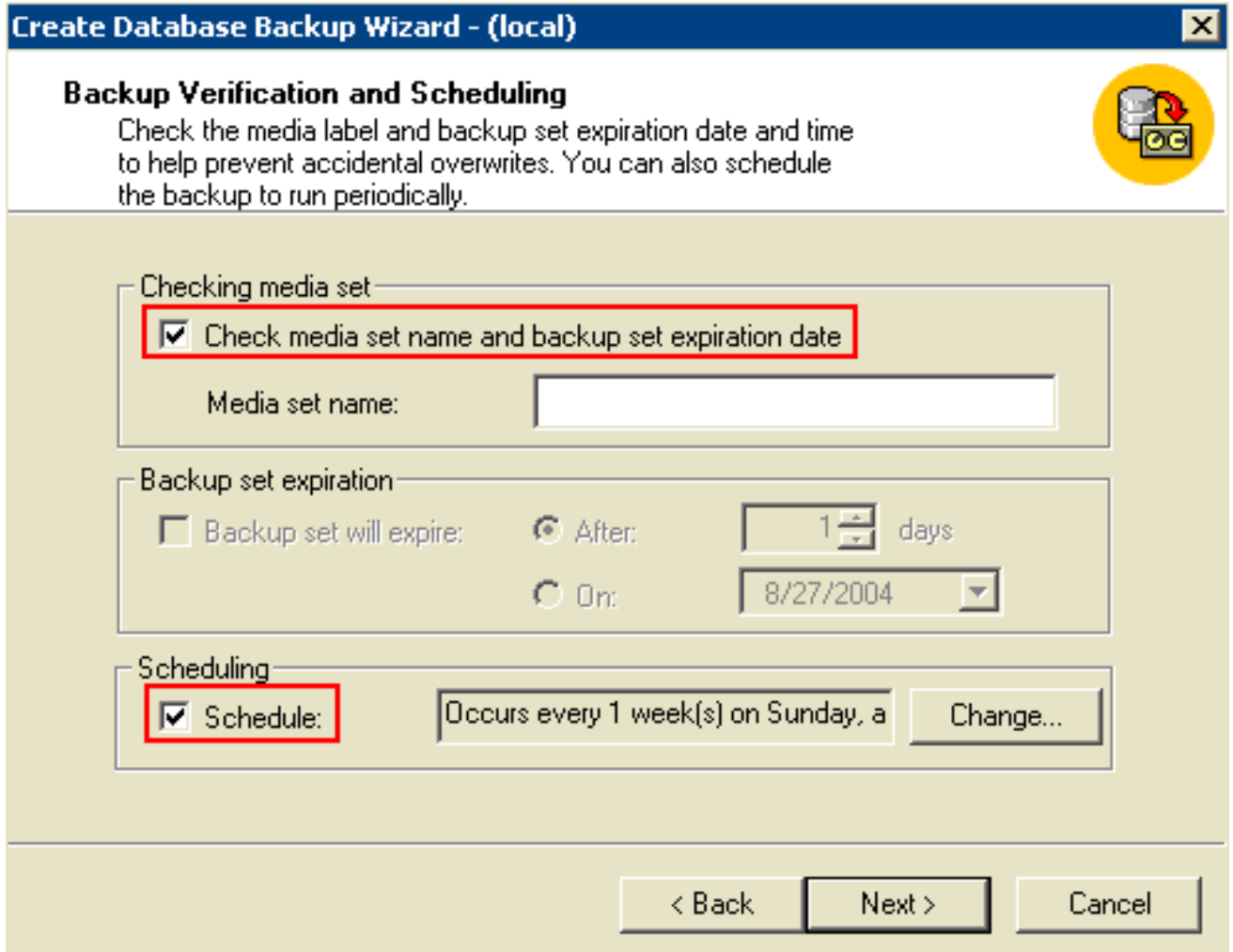
11. [Next] をクリックします。図 8：バックアップの『Type』を選択して下さい



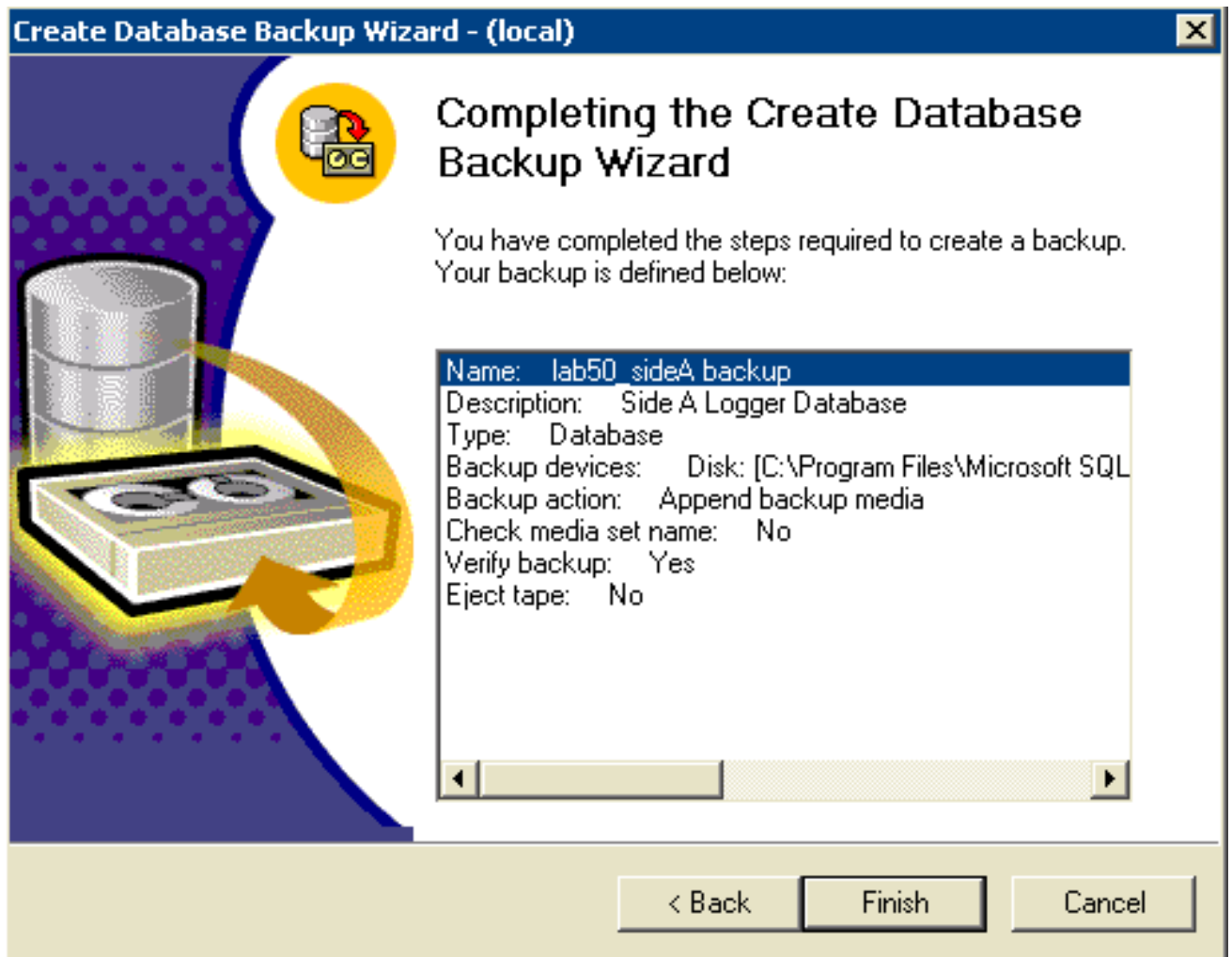
12. Backup 画面の『Type』を選択では、作成したいと思うバックアップの種類を選択して下さい。注: デフォルトは完全な ICM データベース バックアップです。
13. [Next] をクリックします。図 9：宛先および処理を『Backup』を選択して下さい



14. バックアップ デバイス、テープ、ファイル、またはバックアップ デバイスを選択して下さい。
15. 『Read and verify the integrity of the backup after backup』 を選択 して下さい。
16. [Next] をクリックします。 図 10 : バックアップ確認およびスケジューリング



17. 『Check media set name and backup set expiration date』を選択する必要があります従ってより遅いバックアップは偶然既存のバックアップを上書きしません。
18. また規則的なバックアップオペレーションのためのスケジュールを設定できます。
19. [Next] をクリックします。図 11：作成データベースバックアップウィザードの完了



これは選択した選択したオプションの要約です。

20. [Finish] をクリックします。

21. バックアップは作成され、確認されます。注: バックアッププロセスの間に、この3つのボックスは現われます。これらのメッセージはバックアップのバックアップ、確認および完了を表します。図 12: バックアップ経過表示

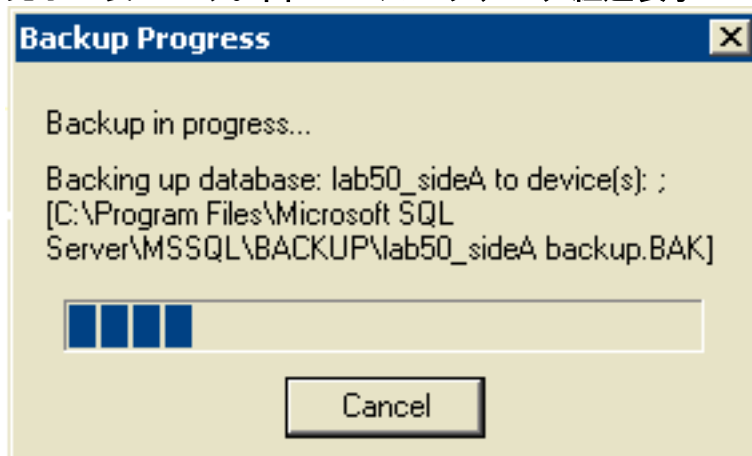


図 13: 経過表示を確認して下さい

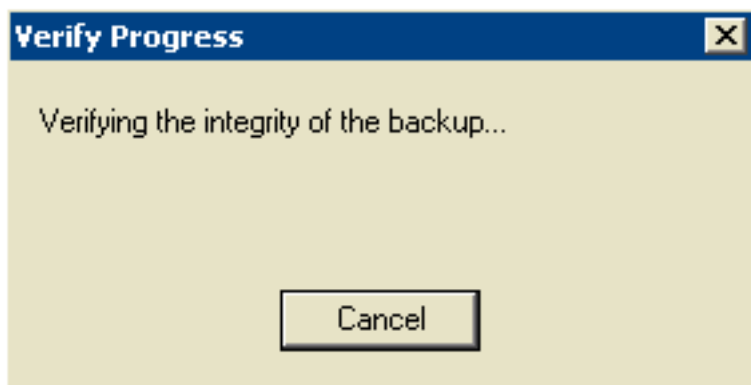
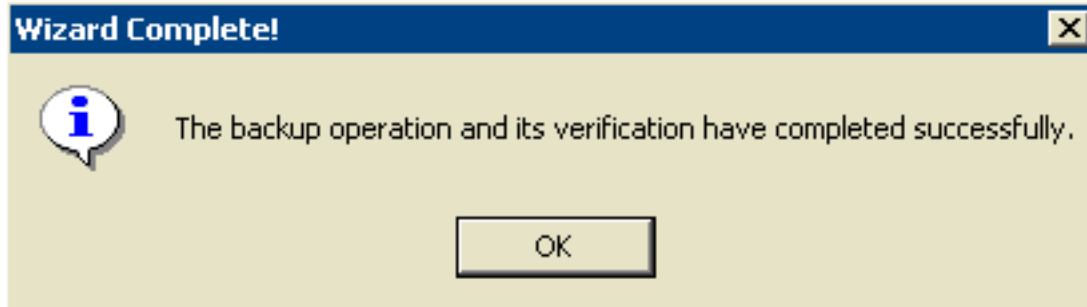


図 14 : 完了するウィザード



Backup ウィザードはデータベース バックアップを作成する簡単な方法です。ただし、リモートサーバに接続した場合、バックアップ機能を設定する T-SQL バッチを発行するためにファーストである。完全のおよび差分バックアップを行うコマンドはバックアップ データベースです。詳細については、SQL Server Books Online を参照し、「バックアップ データベース」を捜して下さい。

バックアップを確認するために、リストア VERIFYONLY コマンドを実行して下さい:

```
restore verifyonly from disk='physical name'
```

[ICM 設定およびスクリプト データ バックアップ](#)

データベースのサイズによっては、バックアップ デバイスからの全体のデータベースを復元することは長時間がかかることができます。ファースト リカバリに関しては、それは履歴データなしで ICM 設定およびスクリプト データだけバックアップすることは実行可能です。ICM は設定およびスクリプト データをバックアップするのに ICMDBA ユーティリティを使用します。詳細な手順に関しては、[ICM 設定 データベースを ICMDBA を使用してバックアップすることを参照](#)して下さい。

[関連情報](#)

- [ICMDBA を使用した ICM コンフィギュレーション データベースのバックアップ](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)